

平成29年度 行政評価事業別シート

	実計対象 <input checked="" type="checkbox"/>	評価対象 <input checked="" type="checkbox"/>	新規 <input type="checkbox"/>	完了事業 <input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/>	担当者	富沢 文洋
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3509
事務事業名	4190 歩道段差解消事業						
所 属	200100 まちづくり推進部・道路河川課						
施 策	01020500 障がい者福祉の充実						
予算科目	会計	01 一般会計					
	科目	030110 民生費・社会福祉費・地域福祉推進費					
	事業	010000 歩道段差解消事業					
事業目的				事業概要・効果			
<p>市内の歩道は、マウンドアップ構造で段差があるため、高齢者・障害者・児童にとって必ずしも快適な歩道空間といえないことから、ユニバーサルデザインのまちづくりを目指すため歩道の段差解消を実施する。</p>				<p>住み慣れた地域で安全で安心して暮らせるために、ユニバーサルデザインの整備を継続し、全ての人に優しいまちづくりを創出する。</p>			

PLAN-DO
年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
歩道段差解消工事 村山墨坂中学校線 L = 160m	歩道段差解消工事 相森中学校線 L = 137m
平成29年度 予定	平成30年度 予定
歩道段差解消工事 相森中学校線 L = 200m	歩道段差解消工事 緑町東高校正門線 L = 140m
平成31年度 予定	平成32年度 予定
歩道段差解消工事 緑町東高校正門線 L = 80m	

指標名	歩道段差解消工事延長						
算式						単位	m
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
目標値	目標	137	200	140	80	0	
	実績	137					
指標選定の理由	地元要望、緊急度及び財源等により工事実施計画を策定						
最終年度目標の根拠	実施計画及び国の交付金等から算出						
指標名							
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名							
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		15,910	68,010
特定財源	国庫支出金	0	37,400
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	27,500
	その他	0	0
一般財源		15,910	3,110
人員数(人)	正規職員	0.3	0.2
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	2,165.7	1,443.8
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	2,165.7	1,443.8
市民一人当たりの経費		0.3	1.3
総額		18,075.7	69,453.8

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	15,910	工事費
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	68,010	工事費
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	必要な事業である。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	歩行者の安全な通行が可能となった。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	特になし	

振り返り（決算年度の取組み課題）

補助事業での実施であるため、予算確保に苦慮

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

総合評価コメント

バリアフリー化により快適な歩道とするため必要な事業であり、年々成果が上がっている。

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

2次評価コメント

全ての人にやさしい道づくりを目指し、財源確保も含め、計画的に歩道段差解消を進めていく。

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント

--